

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年8月28日(火) 午後6時から7時30分まで 【2回目】平成30年9月15日(土) 午後2時から3時40分まで
場 所	台原中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】16人 【2回目】21人 計 <u>37人</u> (2) 事務局 【1回目】教育長 【2回目】教育部長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 金沢小 208人(6) 水木小 283人(12) 塙山小 224人(8) 大沼小 351人(12) 台原中 134人(6) (20年後) 金沢小 157人(6) 水木小 213人(8) 塙山小 169人(6) 大沼小 265人(12) 台原中 101人(3) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問) 10年後を目途に計画を作るのか。再編の青写真はあるのか。</p> <p>(事務局) 青写真は全くない。今あるのは全市的な目安である基本方針。これに沿って、今後、具体的な中身を検討していくことになる。検討の結果でき上がるのが再編計画である。この中には、市の再編の全体像と直近10年間の順番や内容をお示ししていきたい。</p> <p>(質問) 計画の実施時期は10年後以降ということか。</p> <p>(事務局) そうではなく、スタートから10年間にできることを順次進めていく。10年経ってからのスタートではない。</p> <p>(質問) 極端に言えば、来年からどこかの学校で始まる可能性もあるのか。</p> <p>(事務局) 最も大事なものは、お子さんの負担だと思う。他の自治体の例では、スタートから統合まで3～5年かかっている。校舎の整備や子ども同士の交流、その他の準備などで時間が必要。校舎の建て替えや地域事情によってはもっとかかる場合もある。</p>	

(質問)

家を建てる仕事をしているが、金沢学区内では台原中は無くなるといううわさが流れている。そのような話が出るのかと思ってきた。そのような計画は、今のところはないということか。

(事務局)

具体的な計画はない。

(教育長)

台原中については、3年くらい前から、突然そのよううわさが流れ出した。私どもも驚いている。そのような話をしたこともないし、個人的にはよい学校だと思っている。

建物からいえば、台原中は新しい。古い建物から建て替えをしているので、そのようなことからうわさが流れたのかもしれない。その間に、部活などを理由に異動があり、生徒が減っている。今回の人口予測も、今までの減り方を反映しているので、違った状況が出てくると変わってくる。

(質問)

学区を広くすると遠くなる。自転車やバスでは安全性や定時制、費用面など教育とは違った課題も出てくる。そういったことを教育委員会も考えてくれるのか。

(事務局)

これまでも、アンケートや懇談会を行ってきた中で、保護者の方からは、通学距離が長くなることへの心配の声が多い。今回も一番多かったのは、安全上の問題、バスのことなどが挙げられている。私たちも重大なことだと受け止めていて、統合によって距離が長くなる場合は安全が第一。バスや自転車などの通学手段についても考えていきたい。例えば、バスについては、時間や費用の問題もあるが、他の自治体では、バスを使うことで子どもたちが歩かなくなり体力が落ちるといった課題も出ている。総合的に勘案して保護者の皆さんと相談しながら、子どもたちにとって良い方法を検討していきたい。

(質問)

金沢幼稚園が無くなると金沢小学校に入る子どもの見込みが立たなくなるのではないのか。金沢幼稚園児がゼロになっても、金沢小がガタガタになるということはないと言い切れるのか。1学年がゼロになってしまっただけで統合ということになったとき、通学の問題とか対応できるのか。

(教育長)

小学校と幼稚園では様子が違う。幼児は幼稚園や保育園、公立や私立など、元々いろいろな所に行っている。小学校はほとんどが公立の小学校へ行くが幼児はそうではない。そのあたりの流れをどう見るかということだが、金沢幼稚園が無くなっても金沢小学校がゼロになることはない。

(質問)

仮に1学級でもやっていけるのか。

(教育長)

目指す学校規模はあるが、いろいろなことを総合的に考えていく。あと2～3年で金沢

小が無くなるようなことにはならない。

(質問)

小中学校にエアコンはあるのか。

(教育長)

建て替えた学校には入っている。耐震化ができずにプレハブ校舎になっている学校にも入っている。そのほかの学校については準備中である。日立は元々涼しいが、ここ1～2年の暑さは異常。普通学級にエアコンを入れるように予算要求している。来年の夏に間に合うように準備している。

(質問)

小学2年生までは2学級だったが、進級して1学級になった。特別支援学級在籍の子を含めると44人。副担任がいるが機能していないと思う。子どもより早く帰ってしまうことも多い。

担任が宿題を見きれないので、2年生ほうが宿題が多い。教員の負担も多くなる。44人を2学級にすれば昨年と同じようにできる。学級編制の決まりはあるだろうが、どうにもならないのか。

(事務局)

学級編制のルールとして、国の基準では小学1年生が35人、2年生以上を40人上限としている。茨城県では小学2年生まで35人、3年生以上を40人としている。それでも35人を超えると多いという認識はあり、そのような学級には非常勤講師がつくことになっている。副担任とはこのことだと思うが、非常勤なので勤務時間が決まっている。常勤の教員とは違う。

他にも、1学年35人を超える学級が3つ以上ある場合は4学級にするという方法もある。財源が豊かな市町村では、独自に教員を雇用して学級の上限を低くすることもできるが、なかなか難しい。

金沢小は、天井が低く教室も若干狭い。窮屈だろうと想像できる。

(質問)

現在1学級だと、6年生までそのままの可能性はある。特別支援学級の分をカウントしないという制度は何とかならないのか。

(事務局)

日立市では、特別支援学級在籍の児童が通常の学級に戻ることで35人を超える学級には非常勤講師をつけている。学級編制のルールを変えることは難しく、現場としても苦しいところだ。

(質問)

金沢小の特別支援学級在籍の児童がいじめられている。担任に相談しても対応してもらえないと言っていた。体制としてはどうなっているのか。先ほどのように、学級の人数を少なくできれば、先生も余裕が出て対応できるのではないか。

(教育長)

まずは学校に伝えてほしい。いじめについては、少しのことでも教育委員会に報告が上

がるようにルール化している。その後、どうなったかも報告を受ける。教育委員会でも相談を受けるので、どこでも手を伸ばしてほしい。まずは、お子さんが楽しく学校に行けるような手立てが大事。

(意見)

金沢小と塙山小の学区境に住んでいる。台原中学区なので、台原中が存続するなら金沢小に通わせてもいいかと思っている。申請すれば金沢小に通えるのか。

(事務局)

指定学校の変更については、それぞれの家庭の事情を伺って許可している。学務課へ相談してほしい。

(意見)

子どもを入学させるとき、保護者は中学校区を見ている。大久保中は新しく建て替えられた学校なので、行かせたいと思うのは親心だろう。今の意見のような方は、潜在的にいろいろな学区にいると思う。行政の学区割だが、学区域にいる人が中学校区をどう考えているか、意見を聞いてみれば、再編に対する提案にもなるのではないか。

他の市区町村を見てみると、元々人数の多い方へ少ない方を統合し、遠くなるから保護者負担でスクールバスを走らせている。どの道、スクールバスを走らせるなら多いところを小分けして他に移すなどのやり方もあるのではないか。廃校後の施設利用も考えなくてはならない。

区域内の狭間にいる方の声も聞いてみてほしい。大久保や泉丘などきれいな学校に囲まれた狭間の地域に住む人が少なくなるのは当然だと思う。

学校としてはどこに通ってもいいとなれば、金沢小を全面改修すると言ったら子どもが増えるくらいの話だろう。A校にはエアコンがないがB校にはあるとなったら、B校に子どもが流れるだろう。設備面の要因もあるのではないか。

(意見)

人数を増やすイメージが大事だと思う。学区の境にいる人に1人か2人来てもらっただけで2学級になる。このままでは、目指す学校規模から離れてしまい、人が減ることが目に見えている。若い人がいなくなったら地域として変わってしまう。

スクールバスがあれば遠いところからも来てもらえる。人数が多すぎて問題が起きることもあると思う。多いところから振り分けてほしい。

(意見)

再編は人数をならすことが主眼だが、高校のように学校ごとの特色を出してはどうだろうか。好きなところに行かせられればいい。

小さい学校のメリットを生かして、無くさないような話にはならないだろうか。金沢は子育てしやすい所だと感じた。庭で花火をしているとカブトムシが飛んで来たりする。そのようなことを否定してしまうのはもったいない。子ども連れだからかもしれないが、金沢小の子どもたちはすれ違う時に、よく挨拶をしてくれる。そのようなことも強みにしていけたらいい。利便性ばかり求めないで。

台原中が無くなるといううわさは何年も前から聞いていて、最近では、金沢小が無くなるといううわさもよく聞くようになった。親は、部活動ができなくなるので、何とか理由をつけて泉丘中に行かせたがる。そのあたりも考えてほしい。

(意見)

台原中に限っての話はできないだろうが、「今のところはそのような計画はない」と、教育委員会として発言してほしい。

(教育長)

今はいろいろ伺っている時期。子どもが半数になるときに全部の学校を維持していけるのか、お預かりしている税金でのことなので、別の視点からも考えていかななくてはならない。

(意見)

渋滞や土地の値段が高いことが、人が出ていく要因の一つ。平沢の宅地が売り出されたとき、坪36万円で当時の水戸市泉町とほぼ同じ。そう考えると他へ行ってしまう。金沢は現在、9万円くらい。住むにはよい所だが、台原中のうわさがあるので、皆さんの一歩が出ない。

(教育長)

今いる子どもたちのためによりよい環境にしていくことが、これからの子どもたちにもつながっていく。

(意見)

大学に進学すると帰ってこない。特に理系の専門的な専攻をした人たちは、働くところがない。市内にあるサービス業も偏っている。若い人には魅力が足りない。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(質問)

それぞれの小学校から台原中に入学する割合はどのくらいか。

(事務局)

台原中へは、金沢小、塙山小、大沼小、水木小から入学している。
今年度の出身小学校のデータについて、本日は持ち合わせがない。

(質問)

来年度以降の台原中へ入学者数は何人か。

(事務局)

来年度、台原中学校へ入学予定者は102人で、金沢小から6～7割、塙山小から1～2割、大沼小、水木小からそれぞれ1割程度の割合である。

(質問)

周辺の中学校の人数を教えてください。

(事務局)

平成30年5月1日現在で、大久保中が518人、泉丘中が540人となっている。台原中は193人。

(教育部長)

子ども議会での台原中の生徒の質問(*)に、「部活動の数が少なく入りたい部活に入れな
い。」というものがあつた。胸が痛い。((*)は、巻末に記載しています。)

生徒数の多い学校に少ない学校が吸収合併されると表現されることがあるが、学校を統
合するときにはそぐわないだろう。それぞれ良いところがある。

(質問)

学区外の学校に行く要因は何か。

(事務局)

中学校の理由では、「通学上の安全性と利便性」が約27%、「部活動」が約20%、「地
域の事情」「小学校からの継続」がそれぞれ約14%程度である。

(意見)

「入りたい部活がない」ということなら、他にない部活を取り入れるとか、部活を充実
させればいいのではないか。ほかにも、校舎がきれいだったりすることも選ばれる理由に
なるのではなか。

(事務局)

部活動については、指導者の問題もあるので特殊なものを取り入れるのは難しい面もあ
る。

校舎については、古い学校から順に手を入れている。台原中は、市内では新しい学校な
ので、順番としては後ろになっている。

(意見)

剣道部に入りたいと考えているが、台原中では剣道部が無くなってしまうと聞してい
る。他の部活動に入らなければならないのかと悩んでいる。

(質問)

指定学校の変更理由に、坂道は挙げられていないか。安全性と利便性を理由としている
人が3割いるなら、現状に課題があるということではないか。

(事務局)

安全性については、学校や保護者から指摘があつた箇所などは、警察や道路の管理者な
どと連携して改善・対策に取り組んでいる。学区境の人は、隣の学校の方が近いというこ
とはあるだろう。

森下団地辺りの人からは、坂道がきついというような話も聞く。

(質問)

再編は、学区の線引きを変えるということで、統合ではないということか。

(教育部長)

線引きだけではなく、閉じる学校は出てくると思う。日立市の場合は、コミュニティの活動エリアと小学校区がほぼ一致しているので、線引きの変更だけでは終わらないことが課題だ。

(質問)

閉じるところの具体的な考えはあるのか。

(教育部長)

具体的なことはこれから。この懇談会の様子も検討委員会に報告し、検討委員会で検討していく。

「今後の10年間」は第一段階と考えている。統合にはある程度の時間がかかり、10年で全てはできない。

(質問)

坂道を上るのが大変なら、バスがあるといいのではないかと。隣接校に生徒が流出しない対策をとっているのか。

(教育部長)

隣接校への流出について、特に対策はとっていない。

(質問)

今後、明らかに生徒が減っていく学校に子どもを入学させることは不安がある。統合が決まる以前にフォローしてもらえることはあるのか。

(教育部長)

急ぎ、考えなければならないと思う。

(質問)

懇談会の前にもっと情報がほしかった。児童生徒数が偏らないようにする対策はとっていなかったのか。

(教育部長)

統合を含めて、再編はそれを考えること。

(質問)

学級が少なくなると先生が少なくなるといふなら、先生を増やせばいいのではないかと。勉強と部活動はセットでなくてもいいのではないかと。部活動を学校ですることにもこだわらなくてもいいのではないかと。統合以外の方法はないのか。

(教育部長)

教員志望者が減っている。教員の配置には国や県のルールがあり、市独自での対応が難しい面もある。

(質問)

先生の働き方について聞きたい。部活動の外部講師や塾講師の活用などを考えることは

できないか。

(教育部長)

現在も、地域エキスパート事業として、部活動の指導をお願いしている。

部活動には教育目的もある。外部指導員は登録してから研修を受けていただく。仕事を持っている人も多いので、なかなか大変なことだ。

(事務局)

部活動の指導は、生徒指導と連携している。学校生活の中での活躍の場や達成感など、学級担任と部活動の顧問は連絡を取り合っている。

また、教員の年齢構成が偏ってきていて、40代の中堅どころが少ない。特に中学校は若い先生が多い。小さい学校に若い先生では、経験不足が学習指導や生徒指導に影響する。

(質問)

金沢小と台原中が一緒になるといううわさを聞いた。小中一貫校などの考えはあるのか。

(事務局)

市内のすべての学校で、小中連携教育を行っている。9年間の成長を、一貫した方針の基に支えていくことは重要だと考えている。

(*)平成30年8月4日に開催された日立市子ども議会において、台原中学校2年生から「これからの部活のあり方」について質問がありました。

生徒数が減ったことで、一部の部活が募集停止になり、入りたい部活に入れず。生徒数が増えないと部活の種類が増えないが、部活の種類が増えることで生徒数が増えることもあるのではないかと。部活動のときだけ他の学校で活動することなど、これからの部活動のあり方についての質問でした。

この質問に対し、吉成副市長は次のように答弁しました。(要旨)

「今後、生徒数が更に少なくなることが予想されるので、希望する部活動に参加できるよう環境を整えるため、様々な検討をしている。「部活動のときだけは、他の学校でも活動できる」という新しいルールも、希望の部活動に参加できるようにするためには有効であると考えている。生徒の皆さんが興味や関心のある部活動に参加できるよう、環境の整備に努めてまいります。」

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。